

はじめに

日本国内の平和教育は、1990年代以降、長い低迷期の中にある、と言われ続けています。これには様々な理由がありますが、ユネスコによる「軍縮教育」の提言（1980）が示すような、世界平和を実現していくための展望を得るための学習が、なかなか教育の現場に普及されなかったことが一因です。

しかし、国際的な平和教育研究の会議に参加すると、世界各地での取り組みには、それぞれにたいへん幅広く奥深い蓄積があることがわかります。また、平和学・国際関係学には、1990年代以降に、新たな学説の潮流が生まれています。「平和学」は、ちょうど「医学」が人間の生命や生活の質の向上を目指して、生物学・化学・薬学など様々な学問から得られた知恵を総合して病気や怪我に立ち向かうように、国際関係学、社会学、政治学、など様々な学問の成果を総合して、地球社会にある病理としての戦争をはじめとする様々な暴力の極小化と、平和の極大化を目指す「応用科学」です。国際的な平和教育の研究は、平和学の設立とほぼ同時に制度化され、研究・実践の進展と同時に、世界中の多くの研究・実践者の連携を生み出してきました。

本カリキュラムは、国際的な平和教育学の諸実践や、平和学・国際関係学の知見をもとに、現状の世界秩序の課題を捉え、必要なリフォームを案出することを通して、国際平和のために必要な努力の内容を正面から考える学習の試みです。戦乱や気候変動など現代の世界的な危機に応接ができるような、“機能不全”が指摘される国際連合の次の世界秩序を、個人・グループで構想・提案することが、このカリキュラムでの探究のゴールです。10年間の教室での実践では、生徒たちが頭と身体を動かしながら、本当に真摯に、そして創造的に、世界平和の論題に取り組みました。本カリキュラムでの経験の中に、平和教育に携わる現場の先生方にとって、何か少しでも役立つことが含まれていれば幸いです。